

令和3年度学校自己評価システムシート (県立川口青陵高等学校) S25

目指す学校像	地域と連携して自立を支援し、「進んで学び、実践できる生徒」を育成する学校
--------	--------------------------------------

重点目標	1 学習支援を充実させ、生徒に「学ぶ楽しさ」を体験させることで、「主体的・対話的で深い学び」を促す。 2 基本的な生活習慣の確立から自律心と社会性を身に付けさせ、3年間を見通した進路指導を実現する。 3 学校の情報発信と地域との連携を積極的に推進し、社会に貢献できる生徒を育成する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			年 度 評 価 (1月20日 現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	
1	<p>【現状】</p> <p>○感染症対策を取りながら教育活動の継続ができています。朝学習から授業への流れが定着し、生徒の学びの姿勢が向上している。</p> <p>○ICT機器を活用したリモートでの学習が整備されつつある。</p> <p>【課題】</p> <p>○部活動等との両立を目指しながら、どのように学習時間を確保し、さらなる主体的な取組へと変えていくかが課題である。</p> <p>○ICT機器の活用と研修を推進する。一方でBYODネットワークの活用における課題や情報モラル等の生徒指導上の課題を解決する。</p>	<p>○主体的学習を促す取組と感染症対策により登校できない生徒の学習保障を100%行う。</p> <p>○授業改善の手段として、教職員のICT機器活用率を80%以上とする。</p>	<p>①家庭学習用教材を提示する。(オンライン動画教材等の紹介)</p> <p>②各教科における計画的な週末課題を提示する。</p> <p>③感染症対策を講じた日常学習指導を徹底し、進路希望に応じた面談、補習等の対応を工夫して実施する。</p>	<p>①②生徒アンケート「授業以外の学習時間」による取組状況及び「学習支援のための動画等補助教材の配信視聴に対する有効意識」の度合</p> <p>③校内の感染症発生状況及び生徒・保護者アンケート「基礎学力向上」「授業改善」の要望度合</p>	<p>学年閉鎖等の対応もあったが、引き続き感染症拡大防止対策が講じられ教育活動が継続されている。(R4.1月現在)</p> <p>①②普段の1日の授業以外の学習時間で1時間程度以上の割合が増加。(H31.32.5%→R2.42.0%→R3.42.5%)</p> <p>③学びを止めずに生徒への課題等を概ね提示でき、感染症防止策を講じながらも学習活動が実施できた。</p>	A
2	<p>【現状】</p> <p>○生活習慣を確立させ、生徒個々の進路実現に向けて教員による寄り添いながらの指導が計画的に実践されている。</p> <p>【課題】</p> <p>○生徒自身の向上心をさらに高める。手帳等による指導を継続し、生徒自身の学習計画等における自己管理を強化させる。</p> <p>○落ち着いた学校生活を継続させる。9割以上が自転車通学なので、交通マナーに留意させ交通安全指導を充実させる。</p> <p>○感染症拡大防止に留意して、生徒会をはじめ委員会生徒などの主体的な取組を増やす。可能な限りの学校行事の実施と部活動加入率の向上および活動実績の向上を目指す。</p>	<p>○社会情勢に対応しながら、生徒個々の多様な進路希望を実現する。</p> <p>○感染症防止対策を講じながら、すべての学校行事を実施するとともに特別活動を活性化させる。</p>	<p>①「学びの基礎診断テスト」を有効活用し、個々の進路に対応した講習開講や就職支援アドバイザーによる面接指導等を充実させる。</p> <p>②「総探の時間」を工夫し、手帳やキャリアパスポート等の記録により進路意識を向上させる。</p>	<p>①生徒・保護者アンケート「進路指導充実度」90%以上、進路実績状況</p> <p>②手帳甲子園の継続実施や「総探の時間」等でのキャリア教育に係る啓発的取組の実施状況</p>	<p>外部講師による観点別評価・基礎診断テストの活用研修の実施及び小論文指導などの進路希望に応じた個々の指導ができた。また、進路指導部による計画的な学年別の進路行事が実施でき、進路実現ができた。</p> <p>①②「進路指導が充実している」生徒R2.95.1% →R3.93.3%</p>	A
3	<p>【現状】</p> <p>○令和2年度は野球部が小高交流事業に参加できた。また、整備委員会を中心にクリーン作戦を実施し、校外周辺の清掃活動を実施した。</p> <p>【課題】</p> <p>○小高交流事業等の地域への貢献活動を積極的に推進する。また、生徒募集上のPRもふまえてマスメディアを利用して地域へ広報活動を進めていく。</p> <p>○今後もPTA・後援会と連携して、教育活動における環境整備を推進する。</p>	<p>○全教職員が広報マンとなって、広報活動に取り組む。</p> <p>○昨年度実施できなかったPTA・後援会の活動を感染症対策を取りながら計画通りに実施する。</p>	<p>①広報活動とあわせて、小高交流やボランティア活動などを積極的に実施する。</p> <p>②学校説明会や学校見学会に加え、中学校や塾へも積極的に情報提供する。</p>	<p>①小高交流事業の実施、部活動の地域交流、ふれあいクリーンを積極的に実施する。</p> <p>②学校説明会や見学会の実施状況と参加者数</p>	<p>工夫しながら、広報活動を実施した。</p> <p>①ふれあいクリーン作戦やJRC部などによる工夫したボランティア活動を実施した。</p> <p>②施設見学会を4回実施し、延べ630人が参加した。</p>	B
					<p>行事等へのPTA参加は制約されたが、計画的取組はできた。</p> <p>①HPや一斉メールなどで必要な情報を提供した。「本校に通わせてよかった。」R2.92.2%→R3.92.0%</p> <p>②PTA活動が紙面開催などにより柔軟に対応できた。</p>	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和4年3月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・感染症対策をしながら、教育活動の継続のために様々な工夫をこらしていることが窺える。教員が授業自体をわかりやすくするよう心がけていると考えている生徒の割合も増加傾向なので、今後も引き続き工夫した授業実践に取り組んでいただきたい。</p> <p>・自学自習の支援に対しては、生徒の様々な状況を踏まえながら、さらなる工夫が必要と考える。生徒の意欲を引き出し、効率的にICTを活用するなどして、学習時間を確保していくことが課題である。</p> <p>・学校行事の実施は生徒の成長に欠かせないと考える。今年度において、いろいろな制約がある中で、すべての行事の実施は評価できる。生徒も保護者も学校行事の充実を期待しているので、具体的な要望などを吸い上げながら運営企画をお願いする。</p> <p>・部活動は充実した高校生活を送る上で大切な要素である。1年生から2年生にかけて部活動をあきらめてしまう生徒が多いように思う。理由はいろいろあると考えられるが、部活動の参加しやすい環境や雰囲気創出が課題である。</p> <p>・地域との連携は高校だけの課題ではない。中学校等の他の教育機関でも状況に応じた対応と工夫が必要である。自治会等からも意見を聞きながら、連携を強化していただきたい。</p> <p>・PTAの取組をもっと生徒にもアピールして周知させ、他校の取組などを参考にしながら連携を深めていただきたい。</p>	